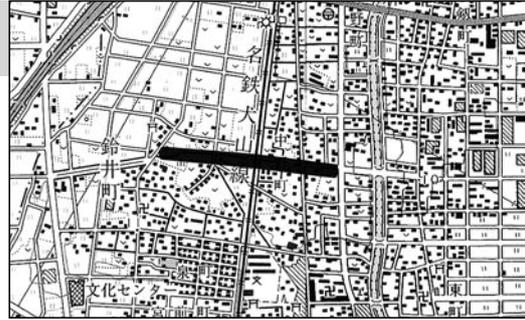


ごさんじ
御山寺遺跡範囲確認調査

所在地 岩倉市中野町、鈴井町地内
(北緯35度17分18秒 東経136度52分13秒)
調査理由 街路新設改良一宮春日井線建設
調査期間 平成16年4月12日～22日
調査面積 100㎡
担当者 蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「一宮・小牧」)

調査の経過 調査対象地内に16ヶ所の試掘坑(テストポイント、以下T.P.と略す)を設定し、土層の断面観察・遺構検出を行った。その後、各テストポイントの遺構の深さ、遺物の出土状況などを精査し、遺跡の範囲とその性格を確認した(テストポイントの設定位置は図を参照)。

立地と環境 岩倉市の北部、五条川右岸に形成された自然堤防上に立地する。岩倉城遺跡からは北北西約1.5kmに位置する。

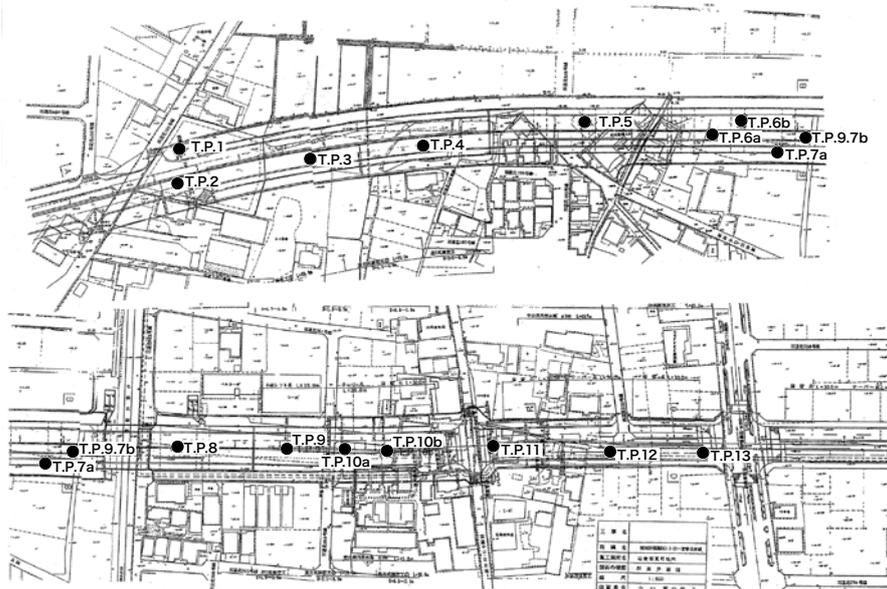
調査の概要 T.P.1とT.P.2は最も西側に位置する調査地点で、最近の掘削による堆積を除去すると古代～中世の遺構が全面にあり、地表下1.0mには厚さ20cm程の黒色土層が検出された。下層の黒色土層からは縄文時代後期の土器が出土し(T.P.1)、その周辺の土層からは炭化物も検出された。

T.P.3～T.P.5では最近の整地・盛土層を除去した面にて水田を検出した。T.P.3とT.P.5は近世と思われる水田面から良好に残っており、T.P.3では古代以降ほぼ同じ位置に築かれた畦畔を4層確認した。

T.P.6a～T.P.7bは畑地の微高地となる部分で、T.P.6a・T.P.6b・T.P.7aでは最近の耕作土を除去すると古墳時代前期の竪穴住居や中世の溝、土坑などを検出した。しかし、T.P.6b・T.P.7aにて半分程、T.P.7bにて全面が最近の土砂採取により、遺構・遺物が消失していた。

T.P.8～T.P.13では最近の掘削による堆積を除去すると、中世以後の遺構面が認められ、古墳時代～戦国時代の遺構・遺物が濃密に認められた。特にT.P.8～T.P.10aにかけては遺構深度が100cmを越す可能性もあり、中世を中心に連綿と遺跡が営まれた状況が窺われた。T.P.10bは最近のゴミ廃棄により全面が掘削されており、遺構・遺物とも消失していた。

今回の調査対象地は、調査対象地西側中央部分のT.P.3～T.P.5の水田跡が検出される地域を挟んで、東西に古墳時代から中世、戦国時代にかけて集落がひろがる遺跡と考えられる。また、調査対象地西端のT.P.1とT.P.2付近では下層に縄文時代後期の遺構が存在するものと考えられる。
(蔭山誠一)



御山寺遺跡試掘地点